



泡洗浄のススメ

洗浄をしたいが構造が複雑なためブラシが届かない、洗浄時間を短縮したい、そんな悩みを抱えていないでしょうか？「泡洗浄」がその問題の解決に役立つかもしれません。

泡洗浄とは、泡状にした洗浄剤を対象に吹き付けることで洗浄を行う方法です。泡を汚れに付着させることで主に洗浄の困難な大型設備、壁面や床、台下の洗浄など、ブラシや水を使った洗浄が難しい場面でお勧めします。専用の発泡洗浄機を使用することで、短時間で広範囲への散布が可能です。

「洗浄」といっても様々な方法があります。ブラシでの洗浄、温水洗浄、高圧洗浄、泡洗浄などです。泡洗浄と比較して温水洗浄は場内の湿度を上げてしまうため、カビや虫の発生を助長するリスクがあります。

高圧洗浄は水圧によって水やゴミが飛散するため、汚れを拡げてしまうリスクがあります。ブラシでの洗浄は手作業で行うため、担当者による仕上がりの差や洗浄時間の面で泡洗浄に劣る点が挙げられます。

表1：泡洗浄の特徴

メリット	洗浄剤の効果を十二分に発揮できる 泡が汚れに付着した状態を保つことができるため、しっかりと洗浄と殺菌が可能
	複雑な形状の機器の洗浄がしやすい 泡を吹き付けることで、ブラシ等が届きにくい機器内や台下なども洗浄が容易（配管内を泡で満たすことで殺虫+清掃も可能）
デメリット	使用する水や洗浄量を少なくできる 発泡させることで最小限の水と洗浄剤で効率的に清掃を行うことが可能（時短も◎）
	固着した汚れを取る力は弱い 高圧洗浄のように固着した汚れをはぎ取る力はないため、事前に取り除く必要がある
	泡の状態が洗浄効果に影響する 水分量や発泡量が適切でないと洗浄剤の付着が弱くなり、洗浄効果が不十分になる



図1：エアムスガン（発泡洗浄機）



図2：床面への散布



図3：台裏への散布

泡洗浄のコツは質の良い泡を汚れにしっかりと付着させることです。水分が多すぎると垂直面に散布すると泡が垂れてしまいますし、少なすぎると軽い泡になり汚れへの付着が弱くなってしまいます。また、対象の汚れや素材にあった洗浄剤を選ぶことも重要になります。目的が除菌の場合は除菌力の高い洗浄剤を選定しましょう。

弊社では泡洗浄をはじめとした洗浄機器や洗浄剤の販売も行っています。目的や対象に応じて適切な洗浄方法のご提案も行っていますので、お気軽にご相談下さい。

今月の豆知識

虹はなぜ七色？

今年も梅雨の時期が近づいてきました。雨が降ると気分が憂鬱になりますが、雨が止んだ後の空に虹がかかると嬉しい気持ちになるのではないでしょうか。

虹といえば「七色：赤、橙、黄、緑、青、藍、紫」というイメージがありますが、実は国によっては二色だったり五色だったりします。これには文化の違いが密接に関わっていて、かつては日本でも五色（沖縄地方では二色）とされていたそうです。七色というのはニュートンが太陽光に関する実験を行った際に「ドレミファソラシ」の七音階に合わせたためと言われています。実際の虹には色の境目はなく無数の色のグラデーションなので、何色でも正解と言えそうですね。

では、なぜ太陽光の色が分かれるのかと言うと、それ

は光の波長（色）ごとに屈折率（光が空気中の水滴を通る際の曲がりやすさ）が異なるからです。赤色は屈折率が低いため、高い位置にある水滴から私たちの目に光が届きます。一方、紫色はその逆で低い位置の水滴から光が届くため、上が赤で下が紫のグラデーションになります。虹を探るときは太陽を背にして、太陽光の照射角度のよりも40°ぐらい上を空を探すと見つけやすいです。昼時や夏で太陽高度が高すぎると見えにくいので時期や時間帯もポイントです。

みなさんもぜひ、雨上がりに虹を探してみてください。

